

每月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共五十錢）



和 清 山 香 兼輯編  
市 田 上 縣 野 長  
校 學 門 專 露 田  
會 曲 千 所行發  
町 昭 市 上 縣 野 長  
所 刷 印 澤 中 所刷印

## 第八回代議員會議事概要

十一月廿三日午前十時より母校講堂に於て第八回代議員會を開催する。

午前十時蒲生理事長開會を宣する。學  
校長は鹿兒島高等農林學校廿五周年祝賀  
式出席の爲め御不在、又井上教授も出張  
に付き御不在の爲め名譽會長の挨拶を略  
し直ちに議事に入る。

事業報告（廿五周年記念事業關係を除く）（倉澤理事）

本會々員數は新入者八十三名死亡者十二名差引一四六三名である。本會及母校に關係深い片倉兼太郎、片山金太郎、倉澤運平の三氏が死去され本會よりは夫々弔意を表した。又三谷徹先生が死去され東京支會から一方ならざる御配慮に預か

つた。東海支會から静岡、岐阜の兩支會が獨立した。鷗友會が諏訪千曲會と改稱された。水害及風害に對しては夫々見舞狀を出し狀況を探り結果を時報で報告した。

廿五周年記念事業報告(蒲生理事)

昨年の代議員會で決議された事項は九項目に分ち五條を置き三月中旬には委員會を開き實施方法を協議した。(此の詳細は本紙五月號に詳しく故略す) 壽像製作は在京委員の御配慮に依り石井鶴三先生に御願ひし坐像とし着々東京にて製作中礎石は縣村産の天然石とし既に到着して

ある。事務所建設は醸出金の申込状態が不明だったので未だ着手しなかつた。漸

と思つてゐる。講演會は七百圓で養蠶、製絲、紡織、人絹、經濟に分ち講師五十六名、各方面の權威者に依頼し一日で終了したい。尙講演集を出版し豫約を募集する。千五百圓で蠶絲學雜誌特別記念號を發行する故、會員諸氏の投稿を依頼する。締切は六月末、發行は十月の豫定である。

ある。千五百圓で全會員に記念品（風呂敷）及會員徽章を進呈する。六百圓で勤続十五年以上の母校教職員及傭人に感謝の意味で記念品を贈呈し尙千曲會の功勞者を表彰する。百圓で關係物故者の追悼會を舉行する。

廿五周年記念事業釀出金報告(林理事)

豫算總額 萬三千圓に對し申込八一四名  
全員の五六% 二、六二〇 一三、一一〇  
圓、内現在迄集金高三、五六五圓である。  
收入は此の集金額に千曲會々計から二五  
〇〇圓、利子二圓二二錢を加へ合計六〇  
六七圓二二錢となつた。支出は舊像建設  
費 二、二九七圓五九錢、内譯石井氏渡二  
千圓、礎石其他二九七圓五九錢である。  
外に事務費三圓五〇錢、雜費、委員會集  
金費が二三九圓二八錢、合計二五四〇圓  
三七錢使用し殘金二五八二圓八五錢であ  
る。申込に對し集金を一〇〇%にする事

は望ましい事であるが實際そうはゆかぬものと考へる故現在の申込額では實收一万三千圓にはならぬ。申込一千名、その金額を一萬五千圓にしたい。未だ申込

議長選舉

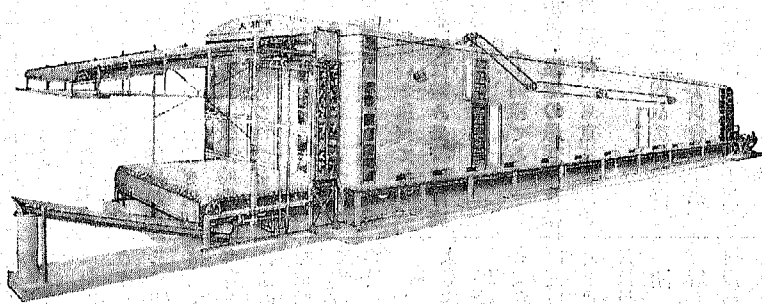
議長は理事長の指名に依る可く動議成立せる故理事長は上原清夫氏(岐阜)を議長に指名し上原氏と交替す。上原氏議長就任の挨拶を述べ議事に入る。

る件(別表参照)(林理事)

収入は殆んど變つてない。古い會員中終身會費完納者が増加するので會費は増加しない。廣告料は幾分増加した。

支出も殆んど變化がない。事務所費の内備品費を減少した。名簿及時報費は會員増加に依り幾分増加した。講演講習費は明年はやらぬが豫算丈けは少し計上して置いた。共済費は金額は變らぬが弔意金の項目を新設し三十圓計上した。弔意金計算の基礎は死亡者一年十人三圓宛三十圓である。尙之は内規を作る積りである。獎勵費の内部會費とは昨年新設を認められたもので各科別に講演會又は研究

二五九五年代表型



【各種型錄贈呈】

# 現代乾繭機界ノ王座

大和式自動輸送乾繭機

元 賣 發 作 製

株式會社

大和三光商會

東京京橋區京橋三丁目二番地

電話京橋(56)五三二〇番

## 營業課目

特許大和式自動輸送乾燥機  
 特許大和式自動人絹乾燥機  
 特許帶川三光式乾燥裝置  
 特許やますホイロ  
 特許サンケー式瀘過淨水裝置  
 特許サンケー式廢湯吸熱器  
 特許サンケー式高壓ポンプ  
 特許サンケー式ラッパ

事は其の煩にたへないと云ふので三谷氏

の場合は退職の時に一回だけ義金を募集

する事とし還暦の時の肖像代は後で此の

金で支辨する事とし一五圓は千曲會で

立替金として財産の中へ入れて置いた。

然るに不幸にして三谷先生には在職中逝

去せられたので記念資金を募集し千四百

圓程集まつた。然し之は千曲會員のみな

らず母校職員、東京高蠶其他も應募して

ゐるので之から支出する事は不合理とな

つた。それであるから今回千曲會から贈

呈した事にして剰餘金から支出した次第

である。今後は斯く如きものは人に依り

不公平があつてはならぬから内規を定め

る事にしたい考へである。

四、會則改正に關する件(本會提出)

1、千曲々則第四條第一項中『代議員

は各支會の所屬會員廿五名迄一名以上

廿五名又は其の端數を加ふる毎に一名

を増す』を『代議員は各支會の所屬會

員五十名迄一名以上五十名又は其の端

數を加ふる毎に一名を増す』に改め即

日之を施行せんとす。

提出理由は會員數の増加と共に代議員

數が増加し本會支會共に旅費が嵩むし徐

々に一縣一支會制になりつゝあるからか

く改正する不合理ではない。

2、千曲會支會準則第四條第一項中支會

長一名の下に『副支會長一名』を加へ第

二項支會長の下に『副支會長一名』を加

へ即日之を施行せんとす。

提出理由は支會長が轉任等で缺員となつ

た時手紙等を誰に出してよいか譯らぬ。

副支會長の様な代理の人があつたと都合よ

い。

審議の結果 數府縣に互れる支會は何

處で總會を開くも他府縣のもの出席せ

ず總會を開くには不都合が多い。然し

各府縣が獨立するには人數が少い。斯る

支會に於ては府縣毎に副支會長一名宛作

ると都合がよい。依つて『副支會長一名』

を『副支會長若千名』に修正する事に決し

た。

休憩 晝食

午前十二時議長休養を宣し講堂前一同

記念撮影をなし生徒控室で晝食を執る。

母校校長代理として和田教授より御挨拶、

上原議長より感謝の辭があり後母校

の禮廳に預かり饅饅に舌鼓を打つ。午後

一時再開する。

七、支會未納會費委託徴收に關する件

提案の説明は會に臨んで詳細な見込

(山形提出)

本問題には本會には關係少なき理由に依り

提出者が撤回した。

八、廿五周年記念事業中千曲會員の徴

章に關する件

昨秋の代議會議に於て折角決議せるもの

なるも全く無用のものなりと信じ之が

中止を切望す。(熊本提出)

審議の結果昨年の決議を尊重し其儘實行

する事と決す。

九、死亡會員に贈呈すべき弔慰金制度

に關する件

本問題は昨秋の代議會議に提出し詳細

なる説明を附せり今回は之を省く。

(熊本提出)

十、會員死亡の場合は本會より花輪(

金十圓)贈呈の件

右は一つは遺族に會員の微意を表はし

一つは一般會葬者に千曲會存在及活動

を知らしむ方便ともなるべくと存じ從

前通り弔詞は勿論之に加へて花輪(勿

論支會にて心配するも金は本會にて負

擔の事)を贈り葬儀を盛んに致したし。

(諏訪提出)

九、十を合併し審議の結果 提案の如き

弔慰金制度は新財源を必要とし明年迄に

具體案を作る事は困難と思考する故理事

者に於て研究し明年可能不可能の報告を

なす事とする。相互扶助迄進展する事は

人員が少いので不可能である。又花輪と

限定せず金額で定めて支會の意志に一任

する事とする。

十一、母校關係職員支會内に於て重大

なる事故生じたる場合本會に代りて支會

の執るべき措置に關する件(東京提出)

提出理由は 例へば學校長の御命令の

御逝去、三谷氏の御逝去等の時支會で香

料花輪等を贈つたが之はよく考へると本

會でする事である。斯る事は他の支會で

はないだらうが東京支會では今後多い

事と思ふ。其の都度東京支會が香料を出

すのでは負擔し切れぬ。故に斯る場合に

本會に代りて支會が執るべき措置を規定

して貰ひ度い。

審議の結果 斯る事は臨機應變にやらね

ばならぬので規定する事は困難である。

故に本支會と適宜交渉打合せをし臨機の

處置を取ることに決定する。

十二、千曲時報を冊子(菊判)に改むる

件(東京提出)

冊子を可とする理由は、一、体裁がよ

い二、保存に便利である、三、編輯に容

易である等である。本案が可なれば何時

から實行するか。同時に現在迄の總目錄

を作つて貰ひ度い。

審議の結果 賛成なるも菊判は二割の

經費増加となる故廿五周年記念事業に剩

餘金を捻出せねばならぬ現在實現困難で

ある。廿五周年祝賀式終了後可及的貴意

に副ふ様にと決す。

十六、絹物消費宣傳方策に關する件

會員率先して絹物を利用し一般に絹物

消費の範を示して宣傳を爲さんが爲め

確實なる絹物の配布機關を設け安價提

供の方策を樹立し以て會員が絹物消費

の實踐宣傳を爲さんとす。(静岡提出)

以上の爲には學校の加工品を會員に安

價提供して利用させ出来れば特別會計

にして貰ひ度い。

審議の結果 會員は絹物を利用宣傳す

る如く心掛けねばならぬ。母校に關係す

る部分は理事者より母校當局に進言して

貰ひ度しと決議す。

五、千曲會員の活動に關する件

六、千曲會基本金活用に関する件

提案内容の説明は會に臨んで詳細なす

見込。(以上山形提出)

以上は委員會に於て説明する。

十五、千曲會館建設利用に關する件

(北陸提出)

舊像建設費に剩餘が出来たらそれで東

京にも事務所を作り上京する會員が宿泊

會合等に利用したい。場合に依つては借

家でもよい。

十三、母校に於ける機業科目の改正を

當局に建議の件

世界經濟不況の刺激と急速なる進歩等

に依り社會の現状は實に甚しき變化を

來しつゝあり。我が蠶絲業も亦其の一

にして之が研鑽は一刻も停滯せしむる

事を許さず。故に母校設立の意義を冒

さざる範圍に於て教科の改訂を劃する

は最も必要な事柄なり。仍て一般農

業と蠶絲業との聯關的研究、蠶絲行政

の研究、各種纖維の研究、蠶絲の研究、

化學の研究及之等の縱橫綜合的連鎖關

係の研究等に關し一般の力を注ぎ適切

なる教育を施す爲め科目、教授時間の

改正を劃り延いては新科の創設を希望

せんとす。(群馬提出)

提案者は斯くの如き提案を爲すは母校當

局に失禮と思ふが母校を愛する餘りの發

露として御了承あり度いと述べてある。

十四、蠶絲業の現状に鑑み母校教育施

設の改善に關する件(北信提出)

提案の内容は十三と全く同様である。

蠶絲業の不安が母校學生の思想に及ぼ

す影響に對する對策如何(東京支會の希

望條項)

以上は何れも複雑な問題故委員附託と

す。五、六、十五を第一委員會 十三、

十四及東京支會の希望條項を第二委員會

とする。委員は議長の指名に依り第一委

員會は井上、岸、芝、齋藤、高島、久保

田、唐澤、二宮、高木の諸氏、第二委員

會は佐藤、岡部、都丸、藤原、田口、中

山、小川、飯島(員)、皆川、藤井の諸氏が

任命され別室に於て審議した。此の間本

會議は休憩となつた。時に午後三時。委

員會終了午後四時再會高島第一委員長よ

り左の報告があつた。五、六に對しては

現在迄の方法では手廻りの強化を

計る必要がある。それには資金を要する

故に五百圓を限度として本會基本金から

支出する事、方法は理事者に一任する。

十五、は賛成なるも實現には困難多き

故當分の内旅館を指定し千曲會東京出張

事務所とし會員が利用する。

小川第二委員長より左の報告があつた。

十三、十四、及東京支會の希望條項に

對し母校の學科内容を變替し實社會に即

したる適切緊要なるものを加へる。例へ

ば養蠶科に對しては一、蠶絲業行政的知

識(農學大意内容改善)、製絲紡織科

に對しては一、加工方面即ち染織蠶絲に

重きを置く。二、纖維化學人造絹絲學

三、紡織經濟學 四、機械學等追加又は

擴張する。實行方法としては一、本會理

事者を通じて母校當局に依頼し 二、本省

其他の官界又は實業界より斯界の權威者

を招聘し講師に充てる事を學校に相談す

る事等である。

委員會案は何れも可決となつた。

一、廿五周年記念母校展覽會へ各支會

より出品願度件(本會依頼事項)

學校の豫算が三、四百圓しか無いから

各支會で何か面白い物があつたら寄贈又

は貸與して欲しい。之に就ては追つて書

面を以つて御依頼申上げる積りであるが

代議員各位より御配慮願ひ度い。

閉會

斯くて提出問題の審議全部終了議長

挨拶をなして降壇す。諸生理事長閉會を

宣す。時に午後五時半であつた。

終に校長代理として晝食に御出席御挨拶

を賜りたる、和田教授に感謝の意を表

す。

[illegible]

A large group photograph of the 1929-30 Faculty of the University of Minnesota. The group consists of approximately 60 men, all dressed in formal suits and ties. They are arranged in about eight rows, with some standing in the back and others seated or kneeling in the front. The background shows a portion of a building with a prominent entrance and a sign above the door that reads "UNIVERSITY OF MINNESOTA". The photograph is in black and white and has a slightly grainy, historical quality.[illegible]

東京	内藤 良雄	高島 秀男
群馬	瀧澤 芳樹	
馬	佐藤 尙雄	都丸 晴治
	戸部 正久	大木 定雄
茨城	中山 鑑一	
兵庫	唐澤 正平	
東海	芝 荒雄	
静岡	太田 元	
岐阜	上原 清夫	
北陸	黒田誠一郎	北原 基
新潟	佐藤良太郎	
山形	野口 活也	
山陽	井上兵一郎	
北奥	小川 保	
神奈川	小林 庸	菅原 勇治
	高木 三治	(重復)
近畿	藤井 料	
福島	笠原 重龜	

幹事(本會役員以外の上田在住及母校勤務卒業者)の出席者姓名は省略す。

[illegible]

第八回千曲會代  
議員會出席者

本會役員出席者（十五名）

理事 飯島 正胤 林 貞三

里口新大良 倉澤 身復

監事 川船 卓爾 高木 三治(重複)

評議員 飯島 貞雄 二宮二九二

區部 彌平 片 勝彌

代議員出席者 (三十三名)

土屋茂一郎	小山	雅夫
-------	----	----

竹内 善吾 勝又 藤夫

諏訪 石川 健丸

安 久保 日工 杉

東京 内藤 良雄 高畠 秀男

群馬 佐藤 尙雄 都丸 晴治

三  
我  
日  
盜  
月音  
正久  
大木  
定城

兵庫 唐澤 正平

淨  
 同  
 太  
 田  
 元

岐 身 上原 清夫

佐藤良太郎

山形 井上兵一郎

山陽小川保

神奈川 高木 三治 (重複)

通	通
易	畜
空	鹿
重	米

幹事（本會役員以外の上田在住及母



代議員會漫談

飯島正胤先生は道に職業柄だけあつて何ても探點をしたがる癖があります。昨年北信千曲會の席上でも出席會員に自己紹介をさせ御自分は開帳帳を出して丹念に探點し之を會場に發表して落第點に近い不良老年組又は惡童組の心腹を察からしめたものです。今度の懇親會でも此の職業意識の出来ない筈はありません。飲む程に酔ふ程にソロ／＼正体を表はしてボケツトからやをら開帳帳を取り出したのも是非ない事です。然し今度の探點方向は前回とは大に其の趣を異にし本會に最も功勞ある會員を飯島式探點式に據つて表彰しやうと云ふ結構な思ひ付きであるから賛成せずには居られませんか。蓋し昨年の探點標準に比べて飯島先生の一進歩と見る可きであります。

先生の開帳帳には代議員會の出席度數や、學校と支會との距離、意見の良否等々微に入り細に亘つて細密に調査してあるのには驚きました。先生も亦難い哉の嘆を發するに充分でした。酒の上からスケールも頗る大きく氣焔も却々荒い。少くとも金時計位は出し兼ねまじき勢ひです。

一たび酒杯をばさんで飯島先生に接しだものは誰でも、不測落第の愉快な態度の中に切實眞に迫る尊い人情のひらめきを感じない者はありません。其の迫力に追はれ眞實に動かされて開帳帳の代議をせねばならぬ立場にたつたのも餘儀ないことです。

先づ最高點の殊勳者は高木、水島兩君とあります。水島君の物語をきくと痛嘆される飯島先生の態度には思はず襟を正さしむるものがあります。

次が大箸、小川、土屋(茂)、鹽原、芝、高島、佐藤(良)、唐澤の諸君であります。之にはチャント順位が施してありそれ相當の理由もあるが此處では一時お預りとし順序不同と御承知を願ひ度い。『毒舌

辛辣』と云ふ註に首尾一貫尊き忠實也と附記してプラスの點を呉れて置くあたりはたのもしいものです。然し同期生を多く引き過ぎたり少壯有爲の士を加へなかつたり等々數ふれば此の探點標準の難點は可成あるが其處が眼の覆をへだて、遠きを望むのであるから大に恕すべき點がある。兎に角飯島君の數へた被表彰者には異論のあらう道理がない。飯島君に代つて二十五周年祝賀會記念品係に此の駄文を獻する。

此の地元村長たる飯島先生が晩の懇親會に開會の挨拶をされた。其の中で『東西の兩大關高島、芝兩君を迎へて……』と兩君に大關の敬稱を奉つたことから大關の定義が研究のテーマを爲さないわけには行かなくなつた。

其處で此のテーマを分析して一、二御紹介をするこんな處はどうでせう。『どうせ一圓五十錢の會費ではろくな御馳走のあらう筈がない。空き腹にして置くことが相互の爲であると信ずるからもう少し質問を續けます(其時簡單々と云ふ者あり、時計は正に五時を指す)。なに／＼云ふといつ迄も續けるぞ！』

『時報を菊判にしる等と取り立てゝ問題にする要はない。編輯がテンデナツチャオラン』等々

飯島氏探點の最高點たる高木三治君が原町の中で時計を見た開會時刻九時に十分を餘すのみです。タクシーも横濱の如くソソコソコに流れて居ない。漸くに探して當てた自動車に飛び乗つて校門を割つたのが正に九時。代議員控室である一號蠶室の宿直室に行つた處藤井料君只一人が友待ち顔の所在なげな所でした。昔新樂金橋先生は修身の時間に『我れ行かざれば會は成らずとして』必ず定刻に行けと云ふ名文を教へられ口碑とし

て今日も傳はつて居るのです。飯島先生の開帳帳に修身の頃も項し加へ高木藤井兩君の點を増して欲しい。

議長は理事長によつて岐阜の上原君に指名されました。理事長が指名に當つてこぼすらく『議長候補ばかりの代議員諸君でありますから』と。餘程選擇に憚んだらしい。何しろ未來の東西の大關も其時はかゝる名こそ持たないが議席に埋もれて居た事は確かですから。然し議長の問題は實に當を得て豫定通り複雑多岐な問題を整理しつゝさばかれた腕は確かなものでした。

之は高島君の非公式な提言ですが議長は晩の宴會に招待しては如何か、之だけ苦勞をさせて唯宴席の中央を占するのみでは名と實の伴はない事おびたしいと云ふのです。高島君のしほらしい意見には大いに賛成です。飯島先生議長も探點の中に加へて欲しい。(YK生)

千枚漫語

千葉 高島 生

午前五時四分上田着、町家未だ起きやらず、街燈の影淡き曉の松尾町通りを、上村ホテルへ急ぐ。商店の多くがコンクリート造りや、その他のモダンな姿に變つたけれど、町の何處かに二十年前の俤が残つて居て、思出の種となる。軒頭の看板を一つ讀んで行く内、荻野洋品店の隣に羽二重餅屋を發見した。昔の儘の格好である。餅がおいしかつたのか、綺麗な紙に包みかいたのか、兎も角足繁く買ひに行つた當時の事を思出して、たまに懐しくなつた。

上村ホテルの前に着くと、鐵門固く鎖してあかず、呼べど叫べど應答なし。時これ十一月二十三日の拂曉 信州は上田の街頭に、寒風に曝されながら、霜を踏んで立つ哀なる旅人の姿を、諸君！想

想してくれ給へ。鐵面皮の男が、鐵門扉の前に立つたてゝ洒落どころではない。十九年間の牢獄生活から婆婆に出たジャン・ヴァルジャンが、初めて宿を求めて得なかつた惨めな姿は、斯うでもあつたらうかなどと、妙にセンチメンタルにもなつたが、果ては着田の時間まで回答を求めながら、宿の手配をせぬ在田の奴等め、氣のかかぬにも程があると、無暗に腹立たしくなつた。

かゝる所へ後からやつて來たのが群馬の岡部(絲三)佐藤(蠶三)の兩君。佐藤君には卒業以來初めての會見だ。『誰か分るか？』分るとも『佐藤君、マイアンをあげたな』『學生時代から薄かつたよ』之が二十年振りの挨拶である。キコシメシ氣味の佐藤君、門扉を乗越へ、玄關の硝子戸を叩いて主婦を呼び起したので、漸く助かつた。

長途の疲勞を醫すべく暫く横になつてまどろむと、廊下でSB(ニックネームです)の聲がする。『ヤイ千枚！何處だ？』折角驛まで迎へに行つたのに、一汽車早く來るナンテ、氣のきかぬ奴だ！』この一言で義の腹立たしきもスツカリ解消とは、さて／＼他愛ないものである。

代議員會に於ける上原君(蠶一)の議長振り、大關の蠶絲課長になる資格は充分だとの定評。千枚が二十五周年記念事業に就て、『校長の銅像建設に關し内務省令形像取締規則に依つて許可の手續を執つたか』『勤続職員に對する謝恩はさる事ながら、僱人の表彰を千曲會がやるのはヘンではないか、學校としてやるべき事だと思ふ』『千曲會の記念事業と、市の協賛會との關係如何』など、盛んに理窟を並べた。この男、理窟を言ふのが身上だと自覺して居るが、いくらか氣がさすと思へ、『理事諸公だけに座談的に言つても間に合ふけれど、斯うして議場で

理窟を言ふのは、一般を教育する爲だよ』と辯明して居る。

晝食は恒例に依つて學校の御馳走だ。和田先生が校長代理として挨拶を述べられたが、創立以來御勤続の同教授が、昔に變らぬ純情な感激的な御言葉を以て、全國から參集した卒業生の勞を痛れたことに對し、私は敬慕謝恩の感に堪へず思はず目頭が熱くなつた。

折悪しく校長先生が出張中で御不在だつた事は、一同の失望を禁じ得ない處であつたが、觀水亭の懇親會に、井上先生はじめ、數先生の御出席を得たことは、ほんとに嬉しかつた。上田氣質の一例をあげれば――卒業生の二三が集まつて牛鍋をつゝかうとする時、『おやち(校長)の所へ電話して、此席へ呼ばうぢやないか』とすぐ相談がまとまり、おやちも亦都合してやつてくる。その間全く慈父と愛兒のやうな氣分だ。此氣分の横溢する所之れ上田蠶專の他に誇り得る最大の特色ではあるまいか。

千枚と同期生の出席者は、SB、微粒子、袁世凱、金魚、馬公、アフター等七名、今年の代議員會は、第二回生のクラス會のみやうなものだ。この夜、三四の惡友と、月倉温泉にドライブし、炬燵にあたりながら諸方に寄せ書を送つた。

信州の山河の景色のよい事は、タマに行つてみるとよく分る。炬燵よし、温泉よし、第一物價の安いことが何より有難い。路傍の石ころにも懷舊の情が湧き、道ゆく女にもなつかしきを感じる。見るとし見るもの悉く親しみを持たれる上田の町よ！一体お前と私はどうしたと云ふんだ？ 花嫁日記(細物宣傳映画)の主題歌ぢやないが『あの日から、あゝあの日から、あなた(上田)のあたし、あたしの、あなたよ』

日先生の像を仰ぐ

藤 摩 堂

『美術の秋』などいふ文字が新聞紙上にチラホラ現はれると、何となく感興をそゝられる。筆者は美術とは凡そ縁の遠いものなのであるが、新聞や雑誌の美術批評には妙に心を引かれて、今年の誰れの作品はどういふ特色があるなど、分らぬながら讀むのを樂しみにしてゐるのである。

今年八月末から旅行をしたが丁度其時分に院展、二科展、青龍社、構造社などが時を同うして上野に開かれた。旅行中新聞で例の如く批評を讀み八日に歸京すると九日の日曜に早速出かけた。

先づ院展を覽る。小林古徑の孔雀、近藤浩一路の山水四題、前田青邨の鷹狩、安田靉彦の月の兎、山村耕花の愛撫泉、中村岳陵の砂丘、横山大觀の朝霧など、旅先で讀んだ批評を想起しながら覽て往つた。勿論分りはしないのである。しかしだん／＼度重なるに従つて、描かれた畫が美しいと思ふばかりでなく、形以外の何物かを表現しやうとしてゐる畫家の精神と、懸命なる苦心や丹精が、おぼろげながらも、分つてくるやうな氣がするのである。

第十室の繪畫を終り第十一室の彫塑に入る。『女と犬』など微笑まれるやうな可愛作品がある。第十二室へ入つて中程迄行くと、筆者は思はず『ア、先生が居られた』と獨語して、一つの塑像の前に立ち止まつた。さうして一禮した。『先生久しくお目にかけません。大變御無沙汰致しました。今日は先生も展覽會へ御出でになりましたか』と語り出したいほど何ともいへぬ温い親しみの感じが一氣に迷ひ出でるのを禁じ得なかつたのである。

『肖像、石井鶴三』としてある。まだ完成してゐない石膏を無難作にベタ／＼固

めたやうな作品ではあるが、よくも斯程までに先生の美しい人格を強く表現し得たものである。と實に感嘆之れを久しふしたのである。ジョーズと肖像を觀れば觀る程先生の慈愛溢るゝが如き御性格が肖像の表に躍動してゐる。肖像が今にも口を開いて『君にも随分久しく逢はなかつたね』と例の活達朗朗で然もなつかしみのある言葉が聞へて来るやうな氣がして低徊するに忍びないのであつた。『先生もだいたい本年をとられたなあ』と又恭しく一禮した。

石井鶴三といふ名は筆者の如き美術の門外漢にとつても、印象が深いのであつた。それは昭和三四四年頃大阪毎日新聞連載の中里介山作大菩薩峠の挿繪に引付けられたからである。此の小説がよほど前から書き初められて稀有の長編となる計畫の由は知つてゐたが讀んでゐる氣もしなかつた。ところが毎紙上で石井氏の描いた挿繪を見ると生氣躍動、畫中の人物が紙上一杯に振舞つてゐる。たまらなはいほどの面白味があり毎日出て来る挿繪を見るのを樂しみながら本文を讀むと、一種の文体で机龍之助、宇治山田の米友お銀様等々、特異な性格を書いてゐる。而も其作中の人物を小説以上に巧みに強く表現してゐるのが石井氏の挿繪であつた。

筆者の弟は少しく美術を解するので、山口達春畫伯や彫塑家藤井清祐氏の門に入してゐる。九月下旬來訪しての語に藤井先生は石井氏の『肖像』を無條件に推稱し、且つ云ふことには『今日迄銅像も數多く作られたが、どれも銅像製作者としての作品で感心が出來ない。石井君のはそんなのとは頗る異にし、全く藝術的想念に充ち三昧に到達したものである』と激賞がなかつたさうだ。筆者は此話を聞いて如何にもこれある哉、日先生肖像の作者は正に其人を得たりと欣快樂し得なかつたのである。

京都時代を振りかへる

藤 米 茂

京都を去つて足掛五年だ。正味にすれば三年だが、轉々として住所を換へたり勤先が變つたりしてゐる僕などから見れば相當長いと思はれた。

あの頃の京都は頗る元氣だつた。石原さんが前月の千曲時報で言はれた様に、つはものが方々から集まつて色々なプランを樹てた。然もそれが色々な意味で相當指導的であつた事は確かだ。

其當時の人々は其後ゴツ／＼と京都を去つた。八木さんは僕よりも一ヶ年程早く東京へ、其頃加美さんは上田へ、小見さんは支那へ、小泉君は台灣へ等々。昭和五年の春内川が卒業と共に四國の山の中へ月給取りに追ひやられた。七月頃僕が京都を去つて一時上田へ、そして九月には東京へやつて來て安月給取りの容器へ納められた。然し其頃はまだ京都には吉川猛文さんや西山さんや橋詰君が残つて活動を續け、滋賀には石原司さんと湯澤重敏さんがゐられた。

其内に湯澤さんは岐阜へ、石原さんは金澤へ行かれた。橋詰君はこれも月給取りに横濱へ、さうして京都は西山さんと吉川さんの二人になつて了つた。

其後僕は勤先の變更があつたり、あれやこれやの難用のためあの頃の京都の人達には御無沙汰をしてゐる。八木さんや小見さんが近い所にゐられるにも拘らず、めつた御逢ひしない。八木さんには三、四ヶ月程前に山手線の電車の中でお目にかけ、其儘だ。小見さんには最近、大井町の絹絲化學研究所へ行く用事から來てそこで久し振りで面會した。お互に『お久しぶり』と云ひ合せて程久し振りで小見さんに逢ふと急に京都のあの頃のことが懐しくなつた。そしてあの當時の人々を、あの人は、この人はと數へ立てた程だ。

上田近在及歸郷同窓生を中心とする新年會の催し

昭和九年もあと旬日を殘して匆匆と暮れんとする。一年と言へば過去として考へる時は非常に短かつたと思はれるが、三六五日と數へれば決して、短いものとは云へないであらう。業界の一線に立つて活動するお互の上に少年時代の様な、又學生時代の様な平穩無事の日許りが續くものでない事は我々の日常に即してはつきり判る事である。腹立たしい事、不平、不満、得意、失敗の數々等、色々な事件はソート／＼とんだつたらうと思はれる。それやこれやの一年を回顧しながら、北海道の端から、台灣、滿蒙の端迄に散住される同窓の諸兄にして今度歸郷され、或は一日でも正月を上田で過されんとするならば、上田近在の同窓生（先生方が御参加願へれば尙更幸甚）と共に一堂に會して、新年の挨拶を兼ね得意談、失敗談、計畫の色々等を語り合ふべき1935年型の新年會を催したいといふ、頗る窮乏でなく御義理的でない目論見なのである。何卒左記御一覽の土幸に御賛同、御出席あらん事を。尙参加者は蠶、絲、紡等科の何れを問はず。

- 記
- 一、會の日時 昭和十年一月三日午前 十時より
  - 二、會 場 別所溫泉 花屋ホテル
  - 三、會 費 一圓五十錢内外
  - 四、會次第 午前より一般新年會、其の後必要に應じ各クラス會を開く可。
  - 五、申込方法 年内中に（若くは年賀狀で）發起人宛御通知あり度し
  - 六、其の他 希望事項あらば申出られ度し

發起人 熊谷恒次、宮坂敏、山口定次郎、竹内善吾、茅野功、香山清和、窪田潤、鷹野誠一（竹内記）





母校ニュース

特別講演 十一月七日午前九時五十分より三時間に亘り廣島文理科大学講師金子大榮氏の「國民性と佛教」と題する特別講義があつた。

野外演習其他 母校の野外演習は十一月十一日午前八時四十分上田驛發で高崎に向ひ夜間演習を行ひ十二日攻防演習十三日特別大演習見學、十四日觀兵式拜觀、午後八時四十分上田着にて歸校した。十五日は慰勞休暇となつた。

新調校旗披露式 十一月十六日午前九時より母校講堂に於て今回新調せる校旗二旗の披露式を行つた。

御親覽拜受 高崎市乘附練兵場に於ける群馬、埼玉、茨城、栃木、新潟、長野の六縣青年團、青訓生、高専校生、中等學校生徒四萬三千名の御親覽は十一月十七日午後二時三十分より行はれたが本校より學校長以下職員十三名學生六二名が受閣の光榮に浴した。

日本蠶絲學會秋季講演會 十一月十七日、東京市麹町區有樂町一ノ七、蠶絲會館に於て日本蠶絲學會秋季講演會が開催された。講演者十七名中本會員は左の五氏である。

一、桑種子の發芽力と微との關係に就て 眞木 元  
三、蠶兒中胃の形態及運動に就て(×線透視法に依る) 山口定次郎  
五、遺傳アミラーゼ四型に關する研究 (第三報) 松村 孝美

六、家蠶血組織の水素イオン濃度及荷電状態と色素攝取との關係 蒲生 俊興  
九、白蠶病菌の變種に就て 勝又 藤夫  
査閱 十一月二十七日午前八時三十分より、第十四師團山田少將に依り全校生徒の査閱が行はれた。小雨降る中を學生は勇敢に演習を行つた。午後三時終了したが非常に好成績との講評であつた。

甘茶會美術展 母校職員學生の餘技に

なる甘茶會美術展會は十一月廿三日より三十日まで母校蠶室に於て開催された。

出品は日本畫、油繪、水彩畫、書、手藝品等二百餘點に及んだ。尙同時に母校職員諸氏の御秘藏になる長井雲坪の遺墨展覧會も職員會議室に開催された。

本年は特に寫眞が多く技術は専門家に上との評であつた。書及油繪は少かつた。御多忙の爲め校長先生の書及日本畫が見なかつたのは淋しかつた。

出品者は左の通りである(括弧内は出品數を示す。記入なきは一種)  
書—齋藤利雄(三)、横山良毅(五)

日本畫—井上柳梧(六)、石倉新十郎(九) 早川直瀨(三) 金子英雄 宮坂收(二)

堀内波(二) 清水榮(三) 岡宮辰夫(二) 寫眞—井上柳梧(六) 倉澤美徳 宮坂收(五) 六川忠一郎(三) 平尾孝平(三)

茅野功(九) 枇杷木龍雄(四) 池内眞吾(五) 濱村一彦(二) 齋藤利雄(八) 町田博(三) 鈴木正一郎(二) 久保田不二夫(六) 柴田久(二) 小木曾眞佐雄 瀧澤幸(四) 米澤俊吾(三) 宮澤芳水氏 石坂眞眞館(四)

油繪—津田弘(七) 小林敏(三) 藤井爲五郎(二) 中村壽一郎(二)

水彩畫—井上柳梧 石倉新十郎(四) 八木誠政(二) 掛川しづ 中村壽一郎 原治夫 赤尾文顯(九) 内藤康三 武井仙太郎(五) 坂本勝三(三) 細井政吉 小林敏 小崎啓助 若林市郎氏 倉田白羊氏

手藝品—和田りん(六) 關あぐり(四) 藤田しづ子(二) 古平茂子(二) 堀内波(二) 山越さと

土曜會 恒例の土曜會が十二月一日會議室に催された。食事中學校長より『本校の催しの參考となるならん』とて鹿兒島高等農林學校廿五周年記念祝賀式參列の模様を著さに物語られた。

談話會 談話會例會は毎週金曜日午後四時より第十一教室に於て開催された。月日、演題及講師は左の通りである。

十一月八日 井上 教授  
一、蠶絲業問題 窪田 潤

十二月七日 窪田 潤  
一、快適空氣の話 窪田 潤  
見 一、ステープルファイバーの「一」の所 野口新太郎

暖房使用開始 十二月三日より一齊に蒸氣、温水又はストーブの使用が開始された。學生時代をすつかり清算してしまつた暖地の會員諸氏は「馬鹿に早いなあ」と思ふかも知らんが信州はそれ程冷い。

學生がノートがとれないと訴へた日が幾日あつたか。それこそ希望の暖房であつた。

三宅玉留氏新任 同氏は十二月四日附を以て紡織科副手を命ぜられたが重に人造絹絲製造の研究に従事される事になつてゐる。

金子教授の博士論文教授會をパスす 母校教授理學博士金子英雄氏は兼ねて東京帝國大學理學部に長年の苦心になる博士論文「セリシンのコロイド的行動の研究」を提出中であつたが十二月七日教授會をパスした旨内報があつた。即ち同教授は理學博士の稱號を許される譯で母校にとつて誠に慶賀に堪へぬ事である。

物理學談話會生る 今回物理學同人で物理學談話會を組織した。内容はコロキウムとセミナーの合の子の形である。今後數回の計畫は左記の通りであるが他に臨時追加があるかも知れぬ。

十二月七日(金) ヘルムホルツ傳(抄) 當番 鷹野卓郎  
十二月十四日(金) ボアズウィッチ定理及其實驗的檢討 鷹野卓郎  
十二月十四日(金) 氣温一日の平均値午前十時の値及極値平均の比較 鷹野卓郎

十二月廿一日(金) 生絲強さと日射の關係に就て(第一報) 鷹野卓郎  
十二月廿八日(金) 一九三四年の物理學回顧 鷹野卓郎  
一月四日(金) 生絲強さと日射の關係に就て(第二報) 鷹野卓郎  
一月十一日(金) 生絲強さと日射の關係に就て(第三報) 鷹野卓郎  
一月十八日(金) 生絲強さと日射の關係に就て(第四報) 鷹野卓郎  
一月二十五日(金) 生絲強さと日射の關係に就て(第五報) 鷹野卓郎  
一月三十一日(金) 生絲強さと日射の關係に就て(第六報) 鷹野卓郎

蠶學談話會の誕生

從來の學會、例へば手近い所で日本蠶絲學會もその一つであるが之等は動もするに單なる學術研究の發表に止り充分之に關し研究論議するの機がないといふ嫌ひがあるので、此の重要な缺陷を補はんが爲に我々は先づ、母校教授の研究發表、學界の趨勢、綜説等を聴き併せて會員相互の研究發表、論議對談等をなす以つて斯學向上發展の實を計らん事を目的とし茲に有志相集つて蠶學談話會なるものを組織し第一回を去る十二月二日母校病棟學實験室で開催した。當日此の趣旨に賛同出席せられたる會員數四五名に達する盛會であつた。午前十時開會、午後五時閉會。最初の試みとしては相當の成績をあげ得た事と信ずる。

當日のプログラムは次の如し。  
講演(午前十時より二時間)  
最近に於ける蛋白質化學の進歩に就て 金子 教授  
研究發表(質問論議)(午後一時より四時迄)

一、國蠶日七號に於ける繭殼光色の遺傳關係 熊谷 恒次  
二、家蠶繭の蠶品種的差異比較並に蛆害算出法の論議 勝又 藤夫  
三、遺傳的酵素作用の研究(一部) 松村 孝美  
四、家蠶血組織に關する研究(一部) 蒲生 俊興

討論 本研究會を如何に導くや?  
尙茲に一言したいのは今回は少數有志の發起であり、通知の範圍も上田、長野、松本等を含む比較的少部分であり時報による通告の機も無く急招へのものであつた爲に只之を一つの豫備的試みとしたのであるが、次回は千曲會の事業の一として學術研究會の「養蠶部會」として認めて戴く事に決定し來春二月二十四日を期して之を開催する事に決まつた。

因に當日の出席者を記せば次の如くである。  
學校長、金子教授、井上教授、佐藤(春)教授(以上賛助會員)  
鶴田、松村、勝又、宮城、春日、山崎、前島、百瀬、(以上長野市)  
飯島、齋藤、小林、北島、竹内、熊谷、町野(以上上田市)  
蒲生、倉澤、須田、小松、細川、市原、太田、枇杷木、池内、宮坂、平尾、茅野、濱村、塚本、齋藤、倉澤(恒)、町田、山口、(以上母校)

中曾根長男(茨城蠶試)、學生六名  
尙校長先生には本會の意の有る所を御推察せられ當日の中食を御馳走下さつた。又御來客の御多忙中を特に御出席の上本會の益々隆盛ならん事を希望され獎勵の御挨拶があつた。會員一同に代つて茲に深厚の謝意を表する次第である。

學術研究會「養蠶部會」開催豫定  
會期 昭和十年二月廿四日(日)  
會場 上田蠶絲專門學校内

本研究會の目的及内容は前記蠶學談話會に於て行はれたるものと同様で即ち母校教授の講演・研究發表、學界の趨勢、綜説等——と會員の研究發表、論議及討論を行ふにある。

而して千曲會員はそのまゝ本部會員たりうるものであるから、或は講演を聴き、研究を發表し又論議等の爲に遠近を問はず多數御出席あらん事を希望する次第である。

尙詳細は、學術部山口迄御照會願ひ度し。(山口記)





本會記事

本會日誌

十一月六日 理事會開會第八回代議員會提出問題及び其の他に付協議せり  
十一月七日 第八回代議員會に參與方本會役員へ通知す  
十一月十日 岐阜市に於て東海千曲會總會開會につき本會蒲生理事長及林理事出席す  
同日 新潟縣新津町に於て新潟千曲會總會開會に付本會倉澤理事出席す  
十一月十一日 大坂市に於て近畿千曲會總會開會につき本會林理事出席す  
同日 静岡市に於て静岡千曲會總會開會につき本會蒲生理事出席す  
十一月十二日 神戸市に於て兵庫千曲會總會開會につき本會理事出席す  
十一月十七日 入會金未納者並に會則第九條第二號該當未納者に對し送納方依頼狀發送せり  
十一月十九日 第八回代議員會開會の件に關し在校會員の打合せを行ふ  
十一月二十日 針塚校長先生の壽慶臺石母校へ到着す  
十一月二十二日 監事會開會本會々計事務の監査を願へり  
同日 午後六時より市内上村ホテルに於て代議員會出席者會合協議會を開會す  
十一月二十三日 第八回代議員會開會す  
十一月二十六日 在校理事會合第八回代議員會可決事項實行上に關し協議を行ふ  
支會區域變更  
東海千曲會の區域を變更し左の通り支會設置せらる  
東海千曲會 區域 愛知縣  
支會長 野澤泰治  
岐阜千曲會 區域 岐阜縣(新設)  
支會長 上原清夫  
静岡千曲會 區域 静岡縣(新設)  
支會長 戸倉八峰

廿五周年記念事業

第七回贈出金申込者(十一月三十日在)

七口(一名金額參拾五圓也)  
田浦 準(絲二)  
六口(一名金額參拾圓也)  
山本辰五郎(蠶一)  
五口(十一名五口金額貳百七拾五圓也)  
今井 又藏(蠶一) 牧野金次郎(蠶一)  
古山 宗八(蠶二) 中山 鐵一(蠶三)  
近藤 正巳(蠶三) 丸川一太郎(蠶九)  
水野 健吉(絲三) 長野 光博(絲三)  
上野 榮仁(絲三) 鈴木鐵次郎(絲四)  
和田 晋(絲十二)  
四口(七名二口金額壹百四拾圓也)  
天田三郎(蠶五) 小山田啓三(蠶六)  
佐藤 旭(蠶六) 二木 猪一(蠶八)  
川船 卓爾(絲十) 新庄哲二郎(絲十)  
林 清市(絲十) 追加分  
三口(十名三口金額壹百五拾圓也)  
池田正五郎(蠶十) 増田 孝(蠶十二)  
井上兵一(蠶十) 齋藤幸道(蠶十三)  
向坂朋二(蠶十六) 竹内衛佐雄(蠶十六)  
小山 久一(絲四) 有賀康人(絲十四)  
若林 清(絲十五) 宮城長雄(絲十五)  
二口(八名二口金額八拾圓也)  
中澤利三郎(蠶七) 勸使河原重之助(九)  
宮城 董(蠶十九) 馬場長市(絲十六)  
富岡 秀(絲十六) 矢野榮輝(絲十七)  
富岡正男(絲十六) 神林浩三(絲四)  
一口(四名一口金額貳拾圓也)  
北本 重郎(絲八) 新野武男(絲廿一)  
小山まさみ(準會員)  
清水はるい(準會員)  
合計人員 四拾貳名  
合計口數 壹百四拾六口  
合計金額 七百參拾圓也  
第七回贈出金納入者(十一月三十日在)  
(○印は完納を示す)  
金參拾五圓也 ○田浦 準(絲二)  
金參拾圓也 ○南佐久農林學校  
○林 清市(絲九)  
金貳拾五圓也 ○水野 健吉(絲三)  
金貳拾圓也 ○二木猪一(蠶八) ○飯田 儀作(紡一)  
金拾五圓也 ○田附由治郎(蠶五) ○高山 裕(蠶五)  
○向坂 朋二(蠶十) ○細川三郎(絲二)  
○有賀 康人(絲十) ○若林 清(絲十五)  
○丸子農商學校同窓生

會費領收(十一月廿日在)

昭和九年年度通常會費納入者  
(○印は蠶絲學雜誌代共)  
○天野 武良(蠶七) ○西 山三(蠶九)  
桂 應祥(蠶九) 山口定次郎(蠶五)  
桑原與四右衛門(蠶六) 尾崎利雄(蠶六)  
○桑田 清義(絲四) 谷口伴次郎(蠶五)  
西川 梅次郎(絲七) 本山 正美(絲九)  
前田益 藏(絲十) ○川船 卓爾(絲十)  
關口得三(絲十) ○和田 虎三(絲三)  
山崎 修也(絲十四) ○山崎保太(絲九)  
市原文雄(絲廿一)  
入會金納入者  
九口 一太郎(蠶九) 千村敏三(蠶十八)  
藤井四郎(蠶十八) 村田一由(蠶十八)  
細川俊男(蠶十八) 春日卓郎(蠶十九)  
北澤延榮(蠶二十) 根津 健(絲十八)  
平野正夫(絲二十) 喜多尾猪門(絲二十)  
金五圓也  
中村武男(蠶十八) 河野芳春(蠶十八)  
濱村一彦(蠶十九) 濱井成一(蠶二十)  
遠山正人(蠶二十) 小林 修(蠶二十)  
原 治夫(蠶二十) 石原滿洲夫(蠶廿一)  
山岸恒一(蠶廿一) 秋山俊雄(蠶廿一)  
荒木慎藏(絲十八) 酒井淳夫(絲十八)  
千葉達人(絲十八) 下村忠一郎(絲十九)  
林 宇一(絲十九) 秋山武一郎(絲十九)  
山崎登榮(絲十九) 藤森明美(絲二十)  
後明武雄(絲二十) 丸山 勳(絲二十)  
六川忠行(絲二十) 服部彌一郎(絲二十)  
松崎昇平(絲二十) 荻野 恒(絲二十)  
角田勝郎(絲二十) 石井清六(絲二十)  
林 英雄(絲廿一) 中曾根誠一(絲廿一)  
小林忠十郎(紡十) 柳澤 信義(紡十)  
川崎信夫(紡十) 中森謹二(紡十)  
宮下和三郎(紡十) 大森一男(紡十)  
矢島行雄(紡十三) 鈴木一郎(紡十三)  
終身會費完納者

計報

會山 直高(蠶四) 丸川一太郎(蠶九)  
未納會費納入者  
金拾五圓也 菅原 勇治(蠶一)  
金六圓也 折茂正太郎(蠶一)  
金五圓也  
原田 兵衛(蠶一) 玉木 勝彰(蠶一)  
林 堉(蠶一) 濱井 壽夫(蠶二)  
堀本 省一(蠶二) 小林 禮二(蠶三)  
吉村 眞作(蠶四) 田口 博輔(蠶四)  
中尾小太郎(蠶四) 松岡 道也(蠶四)  
一志 藏人(絲一) 伊藤 柳作(絲一)  
上野 榮仁(絲三) 杉野 壽一(絲三)  
都筑 賢吉(絲四) 松尾 順策(絲四)  
蠶絲學雜誌代  
金壹圓也 竹内 虎夫(蠶九)

弔慰金募集

本會々員 故松田 敬三氏(絲一)  
左記兩氏に對し前月に引續き弔慰金を募集致します。來春一月末取組め御遺族へ贈呈致し度いと思ひます。其れに間に合ふ様振替口座東京第四三三三番に夫々同氏弔慰金の旨御記入の上御拂込下さい。  
昭和九年十二月十五日  
上田蠶絲專門學校千曲會  
御逝去の詳細に就ては十一月號本紙を御參照下さい。  
故鈴木貞治氏弔慰金第二回  
金五圓也 上野榮仁 原田兵衛  
金貳圓也 三好彌市 清水衛敏  
金壹圓也  
大高 雄三 小松 茂久 川村吉太郎  
門平潤一郎 竹内 虎夫 勝又 藤夫  
安喰 定治 鹽原 克己 高須 兵司  
後藤 仙彌 細川 謙  
合計金貳拾五圓也  
故松田敬三氏弔慰金第二回  
金拾圓也 水野 健吉  
金五圓也 田浦 準  
金參圓也 有賀 康人 若林 清  
金貳圓也 馬場 長市 矢野 榮輝 栗林 悅  
金壹圓五拾錢 齋藤 幸道  
金壹圓也 永井 俊郎  
合計金參拾參圓五拾錢也  
故三谷徹氏記念  
資金寄附者芳名(十一月三十一日現在)  
金拾圓也 水野 健吉  
金五圓也 田浦 準  
金參圓也 有賀 康人 若林 清  
金貳圓也 馬場 長市 矢野 榮輝 栗林 悅  
金壹圓五拾錢 齋藤 幸道  
金壹圓也 永井 俊郎  
合計金參拾參圓五拾錢也

故金澤丈也氏御遺族より禮狀

拜啓 父丈也儀逝去の際には御懇篤なる御悔に預り候のみならず此度は多大の御香焚御供へ被下御厚志の程難有厚く御禮申上候。早速參上御禮申上仕度候へども乍略儀以紙面御禮申上申候。敬具(本會宛)  
金澤 悦也(嗣子)  
故佐藤雄次郎氏御遺族より禮狀  
拜啓 晩秋の候貴會益々御隆盛の段奉賀上候。陳者故雄次郎逝去の際には多大の御配慮を蒙り荷今般破格の弔慰金御心配賜はり誠に難有奉存候。不日改めて御禮可申上候へ共不取敢以書中右拜受の御挨拶申上度如斯御座候不一(本會宛)  
佐藤 佩市(嗣子)  
因に故佐藤雄次郎氏御遺族より母校創立廿五周年記念事業資金中へ金五圓御寄附せらる。洵に感謝に堪へず。本紙上を以て厚く御禮申上ぐる次第なり。  
喪中に付き年末年始缺禮仕候  
昭和九年十二月  
長野縣蠶業試驗場上田支場  
熊谷 恒次  
母の喪中に付き年頭の賀詞差控候不惡御寛恕の程奉願上候  
昭和九年十二月  
愛知縣額田郡岩津町  
今村 良郷  
喪中に付き年始缺禮仕候  
昭和九年十二月  
上田蠶絲專門學校  
竹下 文英

會員動靜

(十二月五日現在)

- 芝 荒雄(三) (勤)從前通り(住)名古屋市中區雪見町一ノ二
- 九合喜右衛門(一) (勤)兵庫縣水上郡蘆田村、蘆田村立農業補習學校
- 中村 馨(一六) (勤)ナシ(住)長野縣西筑摩郡木村吉田
- 六川忠一郎(一八) (住)東京市本郷區金助町七一
- 太田 清藏(一) (勤)横濱市中區日本大通、三井物産株式會社横濱支店
- 矢田部忠吉(二) (住)仙台市河原町五五
- 佐藤 金六(五) (住)東京市中野區東郷二〇
- 長池 遊龜(六) (勤)島根縣美濃郡益田町、那製絲株式會社益田工場
- 奥村 好一(八) (勤)豊橋市、愛知縣南檢定所
- 神戶 敏夫(一三) (勤)群馬縣群馬郡元總社村、群馬社(住)勤務先ト同ジ
- 赤津 辰男(一三) (勤)横濱市中區北仲通帝鑑ビル、大日本生絲販賣組合聯合會(住)横濱市鶴見區下末吉町九二〇
- 兒玉 來(一三) (勤)長野縣諏訪郡下諏訪町、入一製絲株式會社(住)下諏訪町矢木町春日通
- 宮原 秀人(一三) (勤)長崎縣北高來郡諫早町、長崎製絲株式會社諫早工場
- 大久保 直(一三) (勤)山本ト改姓
- 田中てる子(舊教一六) (勤)福島縣信夫郡野田村大字佐木野、鐘淵紡績株式會社佐木野工場
- 宮島志壽子(教一) (勤)全上
- 松澤 榮(紡一) (勤)金澤市、日東紡績金澤絹布工場

再び名簿に就て

昭和九年度の名簿を落手したので暇に飽かせて再三繰返して見る。來年度は丁度母校創立廿五周年記念祭を舉行する事となつて居るので幹部でも名簿の改善を企圖されて居るとの事であつたが成程その準備が視られる。索引の順序に配列される事となるのであらうと推知された。從來の名簿形式は千曲會員の名簿でなく上田蠶絲專門學校の卒業生名簿である。卒業生がどんな方面に活動してゐるか天下に知らしめたいと云ふ意志が籠つてゐるのが歴然と見へる。私は之が嫌やなのだ。尤も若い人達は宿所が常に變動するので勤務場所を記載して置くこと云ふのならうなづかれる點もある。

次に選科又は研究生に對し符號を附する事は非禮ではあるまいか。學校の職員であり且つ千曲會の幹部である諸公はいつ迄も卒業回数と云ふ事に提はれてゐる爲にかゝる非禮を知らず遂行してゐるのである。卒業の年次は、明治四五蠶の如く記せば足るのである。修業生の分は選とか修の字を科別の下に記せばよい。

い。こんな些細な點ではあるが我等の名簿として完成さす上に充分留意して欲しい。今度の名簿に資料蒐集の目的で、私製ハガキが添はされてあるがその項目中官等位勲職名其他の欄がある。これも種に類するもので私はこんな事を名簿に記載する事は不賛成である。

これは今度限りかも知れないが本欄はイロハ順であり、索引はアイウエオ順である事も不賛成だ。

會費の納入者を符號でその姓名の上に冠するとの説もあつたが之も不賛成である。但し終身會員たるを證する符號は會の名簿として已むを得ないかと思つてゐる。兎も角この名簿を他に利用すると云ふ事は間違つてゐる。唯單に會員の居所住所を知るの冊子として欲しいと云ふのが私の本旨である。

名簿の末尾に二三頁の餘白をつけて置いて、千曲時報上に載せられた住所變更を記載し得る様に出来れば好都合であらうと思ふ。

千曲會の職員名、又は會則等は色刷として巻尾に附せられたい。斯くすることゝが体裁上よいと思ふのである。

編輯室より

○時報の使命として代議員會記事を全部本月号に載せたので勢ひ一般記事は割愛され、無味乾燥なものになつてしまつた。讀者と御寄稿者の爲めに一言お詫びを申上げる事如件。

○編輯子が本紙を引受けてから此處に七ヶ月は経過した。そして漸く体裁などと云ふ事を少し考へる餘裕が出て來た。それで近頃各頁の初めに題目が行く様に努力してゐる。とは云ふもののうまくはまらぬからと云ふて無暗に他人の原稿に削除や加筆をする譯にも行かぬ。それで御願ひがある。各位の御寄稿はなるべく五、六字の倍數になる様にしたい。

○東海千曲會總會の寄書が非常に大きかつたので出版にするの印刷所では大分困難したらしい縮寫を二回も行ひ値段は殆んど倍額になつた。之も御願ひの一つ、寄書等の大きさは一尺八寸×一尺三寸以内にしたい。

○支會總會の記事は本紙のニュースバリエーとして重要なもの、一つと考へる方より一記事の依頼状を出してゐる。それにも拘らず送附して下さらぬ處多きは何んとした事か。或は原稿が多過ぎて困つてゐるらしいからと云ふ御遠慮かも知らんが、斯うした記事は何をさて置いても載せ度いと思つてゐる。然も編輯子の原稿が多過ぎて困ると云ふ言葉なるものは丁度、急がしくて困る、宴會が多くて困る、女にもてゐる、の類で本音を吐くと實は自慢なのである。

○寫眞を載せる事は記事に親しみを與へるのでなるべく多く載せ度いと思つてゐるが撮影費、銅版代と嵩んで仲々容易でない。其處で今迄多くは寫眞師の寄贈に依つてゐた。今月は更に進んで銅版の借用と來た。菅平スキー場の寫眞がそれである。借して下さつた温電に對し紙上から御禮を申上げる次第である。

○歳末から正月の休暇には是非菅平又は新鹿澤温泉場へスキーにお出掛け下さいとお薦めする。スキー場の宿賃は安い。やれ忘年会や新年會や飲み廻る代りにスキー場に行つて居れば體の爲にもよい經濟上からもよい譯だ。それに貴部の母校のある懐しい地ですぞ。宴會の費用を節約してこの冬は是非雪の上で轉ぶ事ですな。そして一度でもスキーをやつた人がそれ限りやめて仕舞つたと云ふ話を聞いた事が無い。兎に角願ひされたいと思つて一度やつて御覽なさい。そうすれば其の翌年からはきつと貴部は晩秋から初冬にかけて『初雪』と云ふ活字が新聞紙上に現れるのを眼を皿の様に探し出すでせうから。

式煮繭機

式多條機

特許T M式ストーカー

特許T M式コールセダー

製絲機械器具一般

設計請負

高崎市赤坂町七六番地

坂路商店

電話 一二〇九番

振替口座東京三三六九番

御來店のお土産は

みずい飴 上のクルーツ

杏ゼリ 上ヨコレート

杏仁餡 黒羊羹

香羊羹 果物類 餅詰

信濃そば

上田市松尾町

上飯島商店

電話 二六〇二五四

御宴會に 御會食に

レストラン

香青軒

明瞭な洋室 落付いた

和室 (數室)

上田市袋町 電話 13番

千曲會指定旅館

上村ホテル

上田市海野町

電話 三二七番

旭工業商會

正會員 飯島貞雄

東京市芝區田村町三ノ七

電話 芝(四三)一七二八